



情報誌

FAR

65 号

事務局：公益社団法人 日本放射線技術学会事務局内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989. FAX:075-352-2556/http://www.jsrt.or.jp. Email:office@jsrt.or.jp

《ごあいさつ》

ご挨拶

副会長（総務委員長） 神澤良明



明けましておめでとうございます。

新春のお喜びを申し上げます。皆様おすこやかに新春をお迎えのことと存じます。

振り返りますと 2022 年 4 月 16 日にコロナ禍の中パシフィコ横浜で久々に顔を合わせた世話人会議が開催された。冒頭出席世話人の互選により藤田 透・世話人を会長に選任した。

会長より副会長に森 克彦、神澤良明、小水満、草山泰子の 4 名が指名された。

各々の任として、森副会長は従来通り引き続

き編集委員長として情報誌の編集を担当。神澤は副会長兼総務委員長として庶務関係一般を、小水副会長は懇親会のアドバイザーとして懇親会の相談役を、草山副会長はメーリングリストの管理運用、名簿管理等を担当することとなった。会計監査には引き続き前田幸一監事をお願いされた。錦事務局長には庶務・会計を担当してもらうことになった。

世話人会議が終わったとき、山 哲男・前副会長兼総務委員長より USB メモリーが私に渡された。良いものを頂いたと思い自宅で開いてみると 30 数個のフォルダーが入っていた。これは、山・前副会長が今まで FAR 会役員として FAR 会庶務を担当された記録である。「世話人会議の資料」・「役員会開催案内」・「世話人会議議事録」・「FAR 会からの案内文」等々は皆様もご存じの通り微に入り細に入り書かれているもので、山・前副会長が会の発足以来 20 数年に亘り、FAR 会のためにいかにどの労力を割かれたかこの資料が物語っていることを感じ、庶務の大変さを実感した。

私は元来、適当人間です。このような仕事ができるのか疑問ではありますが、藤田会長より命を受け副会長に就任しました以上は、もとより微力ではございますが、総務委員会を担当し、全力で取り組んで参る所存でございますので 旧に倍してご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023 年の卯年は、今までの数年間から大きく「飛躍」し、私たちの生活が大きく「向上」する年になって欲しいものです。コロナ禍、物価高騰の沈静化を願って『卯歳』を迎えたいと思います。 【文中敬称略】

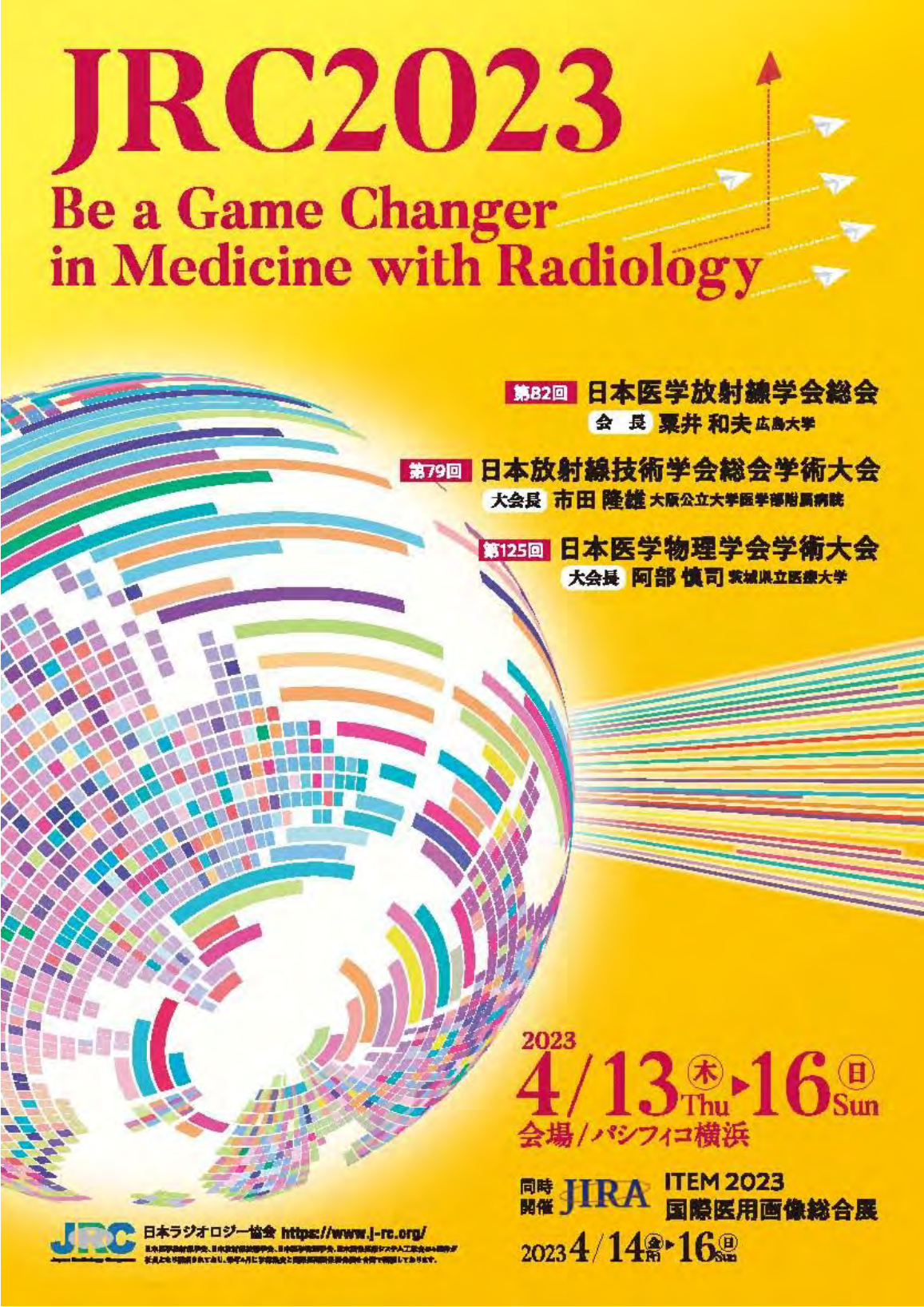


内 容

1. ごあいさつ 副会長 神澤良明
2. 第 79 回総会学術大会のご案内 大会長 市田隆雄
3. 2023 FAR 会 懇親の夕べのご案内 代表幹事 佐藤幸光
4. 第 50 回秋季大会報告 実行委員長 谷畑誠司
5. 2022 FAR 会 懇親の夕べ報告 代表幹事 森 克彦
6. 会員動向
7. 会からのお知らせ
8. JSRT 情報
9. 投稿「私を育ててくれた日本放射線技術学会の
33 年の道のり」 京都市 清水久子
10. 編集の小窓

《第 79 回総会学術大会のご案内》

大会長 市田隆雄 (大阪公立大学医学部附属病院)
会 期 2023 年 4 月 13 日(木)～16 日(日)
会 場 パシフィコ横浜 (横浜市)



JRC2023

Be a Game Changer in Medicine with Radiology

第82回 日本医学放射線学会総会
会 長 栗井 和夫 広島大学

第79回 日本放射線技術学会総会学術大会
大会長 市田 隆雄 大阪公立大学医学部附属病院

第125回 日本医学物理学会学術大会
大会長 阿部 慎司 筑城県立医療大学

2023
4/13^木 Thu ▶ 16^日 Sun
会場 / パシフィコ横浜

同時開催 **JIRA** ITEM 2023
国際医用画像総合展

2023 **4/14^金 ▶ 16^日 Sun**

JRC 日本ラジオロジー協会 <https://www.j-rc.org/>
日本放射線技術学会、日本放射線物理学会、日本放射線診断学学会、日本放射線治療学学会、日本放射線防護学学会、日本放射線工学学会の4学会が
会長と共同開催しており、毎年4月に学術大会と同時開催の国際医用画像総合展を併せて開催しています。

《2023 年 FAR 会 懇親の夕べ》

第 79 回総会学術大会 「2023 FAR 会 春季懇親の夕べ」 ご案内

代表幹事 佐藤幸光

この度の FAR 会懇親会の会場は、横浜中華街に設定させていただきました。
皆様とともに広東料理を味わいながら、ひとときの時間を楽しく堪能できればと願っております。
皆様におかれましては、万障お繰り合わせのうえ、ご出席いただきますようご案内申し上げます。

日 時： 2023 年 4 月 15 日(土) 午後 7 時～9 時 (2 時間を予定)
会 場： 横浜中華街「菜香新館」(広東料理) 2F
<http://saikoh-shinkan.com/>
住 所： 横浜市中区山下町 192
電 話： 045-664-3155(代表)
会 費： 10,000 円 (飲み放題付)
代表幹事： 佐藤幸光
連 絡 先： E-mail： yukimitsu_satoh@human.ac.jp
電 話： 090-5305-6492

【交通のご案内】

JR 電車・地下鉄でお越しの場合

- みなとみらい線 元町・中華街駅 2 番出口 徒歩 3 分
- JR 根岸線 石川町駅 中華街口 徒歩 10 分
- 横浜市営地下鉄 関内駅 1 番出口 徒歩 15 分

【店舗までの行き先案内】

<https://r.gnavi.co.jp/g370002/map/route1/>



《第 50 回秋季学術大会報告》

第 50 回日本放射線技術学会秋季学術大会(東京) 報告

実行委員長 谷畑誠司

2022 年 10 月 7 日金曜日から 9 日日曜日の 3 日間、東京都墨田区両国国際ファッションセンター (KFC) Hall&Rooms にて第 50 回日本放射線技術学会秋季学術大会を開催致しました。

大会長は東京慈恵会医科大学葛飾医療センター技師長の飯田紀世一先生、実行委員長は東京女子医科大学病院の谷畑誠司が務めました。

大会テーマは『心 技 体 Ready to Go! “Next Stage”』としました。

我々は放射線技術学の発展に寄与することを目的に活動をしており、研究を通して放射線技術を発展させ、その技術を医療の現場に提供することが使命だと考えております。一方、医療の現場では診療が主な業務であり、放射線技術の提供だけでなく医療安全や線量管理、機器管理と言った組織体制が重要です。それに加えて技術を

支える医療機器の進歩も不可欠であると考えます。放射線技術の発展はこれら全てがバランス良く調和されることで成り立っており、まさに心 技 体のバランスが重要であることから大会テーマと致しました。

本来であれば2020年に第48回秋季学術大会として『心 技 体』のテーマで開催する予定でしたが、ご存知の通り新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い泣く泣く中止の判断をしました。それから2年の期間を経て再度第50回として大会を開催する機会を頂き、New Normal な学会運営を目指して副題に『Ready to Go! “Next Stage”』と大会テーマに新たな想いを込めました。

大会の運営は、オンデマンド開催も踏まえて安定した開催ができるようコンベンション会社にしっかりと対応して頂きましたが、企画には実行委員の4年間に渡る準備と想いを詰め込みました。代表的な企画としては学会として新たな取り組みを企画致しました。

日本放射線技術学会が東京に事務局を構えます文京区本郷界限には、日本の医療を支えるものづくり企業が1300社以上存在致します。ものづくり企業と我々医療現場の臨床ニーズを共有し、新たな知見を開拓するための「臨床ニーズマッチング会」を開催するという企画です。東京都医工連携HUB機構と日本放射線技術学会 東京支部が主幹となり、より能動的に情報を共有することで、感染防止機器や安全な医療を提供する為の備品など、臨床のニーズが製品化のきっかけになればと考えて企画致しました。

会場ではこんなニーズもある！これがあったら便利！と言った活発なディスカッションがされ、とても有意義な企画であったと考えております。

特別講演では戦場カメラマンの渡部陽一氏に『戦場の医療現場から』と題し昨今のウクライナ情勢も交えてご講演頂きました。またJSRT-JART合同シンポジウム、常置委員会企画、代表理事直轄委員会企画、各専門部会教育講演およびフォーラム、入門専門講座、JIRA ワークショップおよびJIRA 発表会と様々な企画で活発な議論がなされ、まだコロナの終息が見えない状況ではありますが、現地で活発な意見交換がされる会場に触れ、委員一同嬉しい気持ちで一杯になりました。

現地での3日間とオンデマンド開催を加えますと、2048名もの参加を頂き現地では1100名以上もの皆様にご参加頂くことができました。

最後に我々に再び開催の機会を与えてくださった本部理事会の皆様、多くの協賛・ご支援を頂きましたJRC・JIRA様など関連団体の皆様、そして何よりも常に温かくご支援くださるFAR会の先生方に感謝申し上げまして開催の報告とさせていただきます。

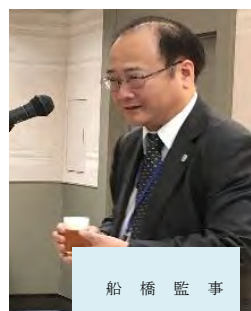
《2022 FAR 会 懇親の夕べ報告》

「2022 年 秋季懇親の夕べ」報告

代表幹事 森 克彦



白石代表理事



船橋監事

日本放射線技術学会・第50回秋季学術大会が、国際ファッションセンター(Hall & Rooms)にて10月7日午前9時30分より開催され、同日の午後7時からFAR会「2022年秋季懇親の夕べ」が、同一ビル内の「第一ホテル両国・北斎」にて24名にて盛会に華やかに執り行われました。開催に先立ち、藤田会長より歓迎のご挨拶を戴き、来賓のJSRT・白石代表理事、飯田秋季大会長・谷畑実行委員長のご挨拶及び大会の案内・報告の後、JSRT・船橋監事による乾杯の御発声により、コース料理・飲み物が運ばれ、1時間程歓談の一刻が営まれました。

その後、第79回総会学術大会・市田大会長、2023年懇親の夕べ・佐藤代表幹事、2023年秋季懇親の夕べ・藤田代表幹事のご挨拶及びご案内が行なわれ、楽しい2時間も中締めの時を迎え、JSRT・平野監事の中締め後、参加者全員で記念写真撮影をもって散会となりました。拙い、司会進行で有りましたが、皆様のご協力により、無事滞りなく閉幕となりました、有難う御座いました。



平野監事

**FAR 会 2022 年 10 月 7 日「秋季懇親の夕べ」
於：第一ホテル両国・北斎**



第 50 回秋季大会・実行委員会より、土俵サブレ
詰め合わせを参加者全員に贈呈いただき御礼申し上げ
ます。

(詰め合わせのしおり：右画像)



最後に、受付及び会計処理にご協力を戴きました、草山副会
長に深甚なる感謝を申し上げ報告といたします。



~~~~~  
《**会員動向**》

令和 4 年 11 月 23 日・現在 89 名(内・名誉会員 16 名)

・会費未納による退会者

規約 第 5 条 (会員の扱いと義務)

2. 年会費は前納とし、原則として会計年度開始後 10 ヶ月以内に当該年度の会費が納入されない場合は、  
自動的に退会扱いとなる。

上記により 2021 年度から会費未納の土井邦雄、川野 誠、松原 馨の 3 名を退会扱いとした。(2022 年 9  
月 15 日付け)

《**会からのお知らせ**》

1. 事業報告

1) 庶務関係 (総務委員会)

①委嘱状を発送した。：2022年5月10日(火)

名誉会長 川上壽昭

名誉会員 山田勝彦、前越 久、萩原康司

顧問 前越 久、山田和美、平林久枝、山 哲男

会 長 藤田 透

副会長 編集担当：森 克彦、総務担当：神澤良明、小水 満、草山泰子

②2022年会員名簿の正誤表を作成した。(草山) 令和4年5月29日

③情報誌原稿を作成し送付した。(神澤) 令和4年8月6日、24日

## 2) 懇親活動関係

①「2022 春季懇親の夕べ」開催(代表幹事：石井 勉)

開催日：2022年4月16日(土)

開催場所：横浜ランドマークプラザ 「美濃吉」

会 費：10,000 円、参加者：26 名

②事務局歓送迎会(宮高、井口、錦)を開催した。

世話人：藤田 透、神澤良明

開催日：2022年4月30日(土)

開催場所：ホテルオークラ京都

会 費：11,000 円

参 加：23 名

③「2022 秋季懇親の夕べ」(代表幹事：森 克彦)

日 時：2022年10月7日(金) 19:00～21:00

場 所：第一ホテル両国「北斎」

会 費：11,000 円、参加者 24 名

## 3) 情報誌関係

①情報誌第63号を2022年5月15日付け、全16頁で発行した。

②情報誌第64号を2022年9月15日付け、全8頁で発行した。

③情報誌第65号を2023年1月15日付け、発行予定。

## 2. 第2回世話人会議

日 時：2022年10月7日(金) 15:00～16:30

場 所：国際ファッションセンタービル 10階 Room107 (第5会議室)

出席者：12名

内容は以下の通り

### 事業報告

上記の事業報告 1) 庶務関係、2) 懇親活動関係、3) 情報誌関係を承認した。

今後の予定(第2回世話人会議ですべて承認された。)

### 1) 会議関係

① 2022年度第1回運営会議・総務委員会合同委員会

日 時：2023年1月13日(予定)

場 所：JSRT 事務局

議 題：2023年度事業計画(案)並びに収支予算(案)の計画等

② 2023年度世話人会議(開催時間は未定)

第1回世話人会議

日 時：2023年4月13日(木)～16日(日)

場 所：パシフィコ横浜



## 第2回世話人会議

日 時：2023 年 10 月 27 日（金）～29 日（日）

場 所：名古屋国際会議場

### 2) 懇親活動関係

#### ①「2023 春季懇親の夕べ」の開催（代表幹事：佐藤幸光）

（第 79 回総会学術大会 2023 年 4 月 13 日～16 日、大会長：市田隆雄）

開 催 日：2023 年 4 月 15 日（土）午後 7 時～9 時

開催場所：横浜中華街「菜香新館」（広東料理）

会 費：10,000 円

#### ②「2023 秋季の懇親会」（タイトル、日時、詳細は代表幹事一任とする）

（代表幹事：藤田卓造、本間龍夫）

（第 51 回秋季学術大会 大会長：小山修司、会期：2023 年 10 月 27 日（金）～29 日（日）、  
会場：名古屋国際会議場）

#### ③「2024 春季懇親の夕べ」の開催（代表幹事：江島光弘）

第 80 回総会学術大会 2024 年 4 月 11 日（木）～14 日（日）（詳細は未定）

#### ④「2024 秋季学術大会」

開催地：沖縄

会 期：2024 年 10 月 31 日（木）～11 月 3 日（日）

JSRT・JART 合同開催、大会長は各会長（代表幹事、詳細は未定）

### 新入会員・紹介



土橋俊男（ツチハシ ユンイチ）

埼玉県さいたま市

令和 4 年 8 月 24 日・入会

電話：090-2319-1213

メール：tsuchihashi816@gmail.com

### 近 況

令和 4 年 3 月末で日本医科大学付属病院を退職（定年）し、4 月より令和あらかわクリニックで勤務。

来年（令和 5 年）4 月の令和あらかわ病院の開院に向けて準備をしています。

技師長 OB や企業の MRI 関係の OB らと「一般社団法人・安全な MRI 検査を考える会」を立ち上げ MRI 検査の安全情報を発信しています。

### 趣 味

1950 年代、60 年代の日本映画の鑑賞。ここ 2 年間で 250 本近く鑑賞。

車の運転。暇な時間があれば車で外出しています。

（「写真」ならびに「近況」、「趣味」の記述内容は入会申込書に記載されたものです。）

### 《JSRT 情報》

『第 79 回総会学術大会』大会テーマ：「Be a Game Changer in Medicine With Radiology」

大会長：市田隆雄（大阪公立大学医学部附属病院）

会 期：2023 年 4 月 13 日（木）～16 日（日）

会 場：パシフィコ横浜

『第 51 回秋季学術大会』大会テーマ：「Go into the future - 一つ先の未来へ -」

大会長：小山修司（名古屋大学）

会 期：2023 年 10 月 27 日（金）～29 日（日）

《投 稿》

私を育ててくれた日本放射線技術学会の33年の道のり

京都市 清水久子



1942年(昭和17年11月16日)日本放射線技術学会が旗揚げされ、紆余曲折の道を歩みながらも、80周年と云う記念すべき年を迎え、また、情報交換の場・懇親の機会が作れないかと云う声の高まりを受けて2001年に発足したFAR会も昨年度20周年を迎えました。両会の歴史に深甚の敬意を表します。私自身、1972年(昭和47年)に日本放射線技術学会事務局に入職し、2005年(平成17年)に退職するまでの33年間、事務局の一員として微力ながらも両会の運営に携わらせて頂きました。この間、多くの会員の先生方、役員の方々、そして毎日机を並べ一緒に仕事をしてきた事務局職員の方々の温かいご指導・ご協力によって恙なく務め上げることができました。この場をお借りして改めて深く感謝とお礼を申し上げます。事務局での33年間の経験は幸せの産物であり「貴重な財産」ともなっています。私のモチベーションとなったのは、日本放射線技術学会誌創刊10周年記念号に掲載された 関 忠孝先生の「本会が創立早々戦時下の苛酷な試練に耐え今日の成長を見るに到ったことについては、これを守り立ててきた役員のご尽力にただ感謝する」であります。月日の経つのは早いもので退職して十数年、何時の間にか後期高齢者の仲間入りをする歳となりました。長年私を育んで下さいました会員や役員の皆様方、そして職場の仲間の方々に感謝の気持ちとお礼を伝えたいとの想いを強く抱くようになり、薄れゆく記憶を辿りながら学会創立当時から60年間の変遷を黎明期～創世期・成長期の2期に分けて年表形式に纏めてみました。「歴史が人をつくり、人が歴史をつくる」との格言があります。60年間の学会の歴史を共有し次世代(成熟期)への歴史の一ページとなれば幸いです。

1. 学会の黎明期～創成期 (1942年～1970年)

学会の創設

1942年(昭和17年11月16日)

京都ホテルにおいて日本放射線技術学会創立準備委員会を開催。

会 長：日本医学放射線学会会長を推戴(中島良貞)

常任副会長：滝内政治郎、年次副会長：高宮康治

事 務 所：京都帝国大学医学部附属病院理学的診療室内

支 部：北海道、東北、関東、東海、北陸、信越、関西、四国、中国、九州、朝鮮、台湾、満州(13支部)

1943年：第1回総会開催(昭和18年3月29日)、開催場所：九州大学

名 称：「日本レントゲン技術員学会に改称」

会員数：1,450名、参加者数：400余名、演題数：20題

1944年・1945年(昭和19年・20年) 戦争激化により総会開催中止

日本レントゲン技術員学会雑誌第1巻発行

会 費：6円10銭(昭和19年度払込書資料参照：下図)

添付資料

昭和19年度

会 費 金 6 円 10 銭 也

振替郵便京都 23167 番本会宛拂込被下度候

會 計



1946 年（昭和 21 年）第 2 回総会開催、京都大学  
学会名称：日本放射線技術学会に再改称

1947 年（昭和 22 年）  
会長選出方法：正会員から会長を選出するに会則変更  
会 長：滝内政治郎

1948 年（昭和 23 年）  
代議員制の制定  
支部の細分化（会員 50 名以上の地方は支部設立を認める）  
日本放射線技術学会雑誌第 3・4 巻の発刊（第 3 巻の発刊は 1948 年 1 月で 1947 年事業、第 4 巻は 1948 年 9 月発刊で 1948 年事業）

1950 年（昭和 25 年）  
支部細分化進む（全国 19 支部）、関東支部より支部廃止案提出（否決）

1951 年（昭和 26 年）  
滝内政治郎会長退任、細江謙三会長選出  
診療エックス線技師法制定

1952 年（昭和 27 年）  
名誉会員の推戴：滝内政治郎、関 忠孝、石田熊治郎  
編集委員会発足、入会金制度の制定

1953 年（昭和 28 年）  
宿題報告の導入  
企画委員会、運営委員会、表彰者選定委員会、事務局委員会等の設置

1954 年（昭和 29 年）  
10 周年記念特集号発刊（昭和 30 年 3 月発刊）、技術史編纂の要望、文献集 1 号発行

1955 年（昭和 30 年）  
学会誌に内外文献紹介開始

1956 年（昭和 31 年）  
総会にシンポジウム制の導入  
関西支部より支部廃止提案（保留）

1957 年（昭和 32 年）  
社団法人化の検討要望

1958 年（昭和 33 年）  
年度会長制度の導入、社団法人化準備委員会発足

1959 年（昭和 34 年）  
社団法人定款（案）を総会提案

1960 年（昭和 35 年）  
社団法人申請書を文部省提出

1962 年（昭和 37 年）  
ブロック単位の支部制の提案（各県支部廃止）

1963 年（昭和 38 年）  
測定部会、防護部会、ファントム部会の発足

1964 年（昭和 39 年）  
幹事制を理事制に改正

1965 年（昭和 40 年）  
日本放射線技術史（初巻）委員会発足

1966 年 (昭和 41 年)  
 評議員制を代議員制に改正

1967 年 (昭和 42 年)  
 全国 8 部会となる。  
 展示発表方式の採用

1968 年 (昭和 43 年)  
 法人化推進委員会設置

1969 年 (昭和 44 年)  
 第 4 回国際放射線技術会議開催  
 会費本部直納制の提案

1970 年 (昭和 45 年)  
 学会のあり方検討委員会発足、放射線障害物故者調査委員会発足  
 オフセット印刷による予稿集の発行

1971 年 (昭和 46 年)  
 学会のあり方に関する答申書提出、事務所移転の検討

【監修：川上壽昭】

## 2. 入職後の学会事業の遍歴 (成長期 1972 年～2000 年)

| 年                        | 主要事業                                                                               |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 1972 年 (昭和 47 年)<br>清水入職 | 事務所購入 (京都市中京区二条プラザ)、事務所移転<br>プログラム委員会発足、論文審査レフリー制導入                                |
| 1973 年 (昭和 48 年)         | 研究区分コード発表                                                                          |
| 1974 年 (昭和 49 年)         | 第 1 回放射線技術シンポジウム開催 (現 秋季学術大会)<br>学会雑誌定期隔月発行実施<br>専任事務局長就任 (梅原傳介)<br>法人化の会則改正案 総会提出 |
| 1975 年 (昭和 50 年)         | 社団法人認可 (文部省 昭和 50 年 3 月 24 日)                                                      |
| 1976 年 (昭和 51 年)         | 瀬木賞制度制定、賛助会員制採用                                                                    |
| 1977 年 (昭和 52 年)         | 画像部会発足、展示発表方式の採用                                                                   |
| 1978 年 (昭和 53 年)         | 滝内研究助成金制度発足<br>特集号として「最近の医用技術」を発刊                                                  |
| 1979 年 (昭和 54 年)         | 診療放射線技術学体系全 15 巻の発刊に向けて出版委員会の発足<br>会員名簿発行 (全会員配布)                                  |
| 1980 年 (昭和 55 年)         | 川崎研究助成金制度発足、放射線技術体系出版<br>核医学分科会、放射線治療分科会発足                                         |
| 1982 年 (昭和 57 年)         | 梅谷賞制度発足、会費直納制の実施、事務局の拡張                                                            |
| 1983 年 (昭和 58 年)         | 梅谷賞受賞開始、英文誌第 1 号の発刊                                                                |
| 1984 年 (昭和 59 年)         | 放射線撮影分科会発足<br>放射線機器技術発表会発足<br>文献集第 2 号の発行、会員名簿の発行                                  |

|                 |                                                                                                    |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 | 会費直納制 支部広域化提唱                                                                                      |
| 1985 年(昭和 60 年) | 海外短期留学制度の制定、放射線技術学用語集発行<br>会費直納制全支部移行完了                                                            |
| 1986 年(昭和 61 年) | 秋季学術大会発足(放射線技術シンポジウムを継承し、第 13 回大会として発足)                                                            |
| 1987 年(昭和 62 年) | 抄録集をオフセット印刷で通巻号として発行<br>「学会長・大会長制度」を制定<br>学会長：学会事業運営全般の統括責任者<br>大会長：学術大会運営に関する責任者<br>学会長と大会長は兼任しない |
| 1988 年(昭和 63 年) | 学会誌毎月定期発行、放射線医療技術叢書の発刊<br>日本医学学術振興協会(JMCP)創立(日本放射線医学会、日本放射線技術学会、日本放射線機器工業会)の 3 団体から構成              |
| 1989 年(平成元年)    | 日本放射線技術史第 1 巻の発刊、文献集第 3 巻発行<br>学会長・学術大会長制度の実施                                                      |
| 1990 年(平成 2 年)  | 放射線防護委員会発足<br>会員名簿発行                                                                               |
| 1992 年(平成 4 年)  | 将来構想委員会設置<br>学会シンボルマーク作成                                                                           |
| 1993 年(平成 5 年)  | 計測部会発足<br>文献集 4 巻の発行                                                                               |
| 1994 年(平成 6 年)  | 日本学術会議登録、画像部会・計測部会を「分科会」へ変更<br>総会学術大会 50 回記念事業                                                     |
| 1995 年(平成 7 年)  | 放射線防護分科会の発足<br>国際研究集会派遣会員制度の制定                                                                     |
| 1996 年(平成 8 年)  | 学会誌の外注(第 52 巻 4 号より)表紙デザイン変更<br>代議員制を評議員制に制度変更<br>学術大会の演題募集・参加登録の処理作業を JMCP に移行                    |
| 1997 年(平成 9 年)  | 学生会員制度の制定<br>役員任期 2 年制                                                                             |
| 1998 年(平成 10 年) | 支部制度廃止、学会ホームページ開設<br>電子図書館サービス登録(文部省)                                                              |
| 1999 年(平成 11 年) | 技術史(第 2 巻)委員会発足                                                                                    |
| 2000 年(平成 12 年) | 学術大会一般演題のインターネット申し込み開始<br>将来構想委員会発足                                                                |
| 2001 年(平成 13 年) | FAR 会発足(神戸市)                                                                                       |
| 2002 年(平成 14 年) | 学会事務所移転(京都市下京区)<br>日本放射線技術学会技術史第 2 巻発刊                                                             |



\*1942 年学会創立から 2002 年までの 60 年間の歴史を振り返るにあたり、放射線技術史（1 巻・2 巻）及び既刊の学会誌等々参考にしましたが、主要事業の制度の制定年度と実施年度の違いによりズレがあるかもしれません。お気づきでしたらご訂正、ご連絡のほど宜しくお願い申し上げます。

参考資料：

- 1) 関 忠孝 日本放射線技術学会誌創刊 10 周年記念号
- 2) 山田勝彦 日本放射線技術学会雑誌 第 18 巻 4 号
- 3) 日本放射線技術史第 1 巻・第 2 巻

## 《編集の小窓》

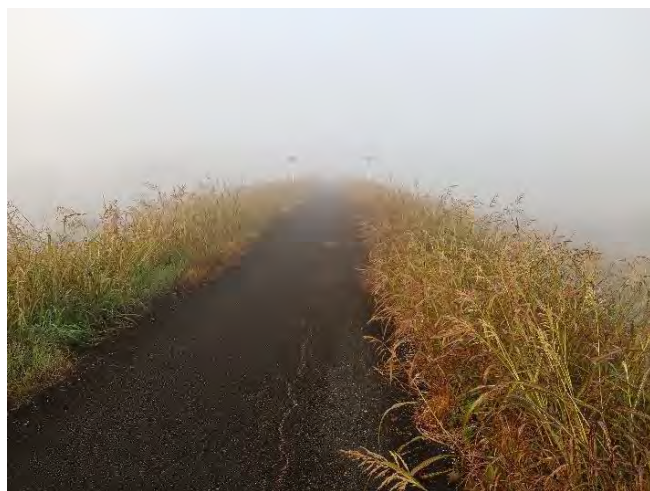
### =自然の営みに触れて=

ウォーキングを始めて 13 年ほどが経過し、住所地の郊外を中心に 23km 前後の距離の 4 コースの中から、現在は、自宅から西方向に向かい 11km 程にて戻るコースを 3 年ほど利用して来ているコースは、自転車道及び河川管理道路と一般道の混在したコースである。自宅より、5km 程進むと、入間川の管理道路・自転車道が交差するコースへと歩を進め、落合橋の中間点より、小畔川の管理道路に出て西方へと進むのが常であるが、この日は、濃い霧の中に突入することとなった。過去にも霧の中を進んでいったことも何度かあったが、前方が 2～3m 程の視界（下写真）は初めてで、異次元に突入したかの趣であった。

コースは何度も利用しているので迷うこともないが、周りの景色が霧一色となり自然の変化に少し戸惑いつつ 30 分程進むと平塚橋の袂に到達すると少し霧も晴れてきて、朝日を温かく感じながら、第 1 休息所（いなわく公園）に到着した。自然の営みに触れた一時であった。



左側の標識(入間川左岸：いるまがわ)、  
右側標識(小畔川右岸：こあぜがわ)



森 克彦、記

### FAR 情報誌 No. 65(非売品)

発行日 2023 年 1 月 15 日

発行者 藤田 透

編集委員会

森 克彦 (委員長)

石井 勉 (委員)

江島光弘 (々)

山田和美 (顧問)



連絡先

Tele. faxed : 049-225-2619

Email : mokamokawh@gmail.com

mo-katsu@jt4.so-net.ne.jp